

シベリア抑留、節目の追悼式..露外交官が初参列

読売新聞

2015年8月23日

第2次大戦後、旧ソ連の最高指導者スターリンが日本兵らの抑留を命じた日から70年となる23日、抑留の犠牲者らを追悼する式典が東京都千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で開かれた。

2003年から毎年開催する式典に、ロシア側の外交官が初めて参列。抑留に関する記録がまだ多くロシア側にあるとされ、参列者の中には「全容解明に向けてロシアの協力が得られるのでは」と期待する声もあった。

この日、「シベリア抑留者支援センター」（東京）が主催した式典には、遺族ら約200人が参列。抑留で父を亡くした女優の松島トモ子さん（70）が、「父はどれほど日本に帰りたいかっただろうか。戦争は二度と繰り返してはいけない」と遺族を代表してあいさつし、献花した。

また、今年が戦後70年の節目であることから、同センターがロシア側に打診したところ、在日ロシア大使館の外交官エフゲニー・マルトフ氏（27）が初めて参列。マルトフ氏は式典終了後、「犠牲者への敬意と哀悼の気持ちを持って献花した。参列したことで、この思いはより深くなった」と述べた。

ウズベキスタンに3年間抑留された同センター世話人の池田幸一さん（94）（大阪府豊中市）は、「外交官の参列は、ロシアも抑留を真剣に受け止めていることの表れ。全容の解明が進むのではないかと指摘した。